

平成30年度 第3回 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会	
日時・会場	平成30年10月17日(水) 15:00~16:30 805会議室
出席者	委員 黒岩亮子(日本女子大学) 小室崇司(八王子市町会自治会連合会) 篠原由紀子(市民委員) 添田繁實(市民委員) 堤直樹(八王子市民活動協議会) 山崎光嘉(八王子市社会福祉協議会) 山下晋矢(八王子市医師会) 山本英雄(八王子市民生委員児童委員協議会) 和田清美(首都大学東京)
	市職員 小峰福祉部長 小澤生活福祉担当部長 井上福祉政策課長 立川高齢者いきいき課長 野田高齢者福祉課長 小池障害者福祉課長 一杉生活自立支援課長 米村生活福祉総務課長 田島健康政策課長 市川地域医療政策課長 叶協働推進課長
	説明員 社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会 井出支えあい推進課長 大島福祉総務課長
欠席委員	なし
次第	1. 開会 2. 議題 第3期八王子市地域福祉計画について (1)「包括的な相談・支援体制」について (2)「包括的な地域福祉ネットワーク会議」について 3. 報告 八王子市社会福祉協議会からの報告事項 (1)「地域福祉推進拠点」の整備状況について (2)「第3次八王子市地域福祉推進計画」の進捗状況について 4. 閉会
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
資料	・ 次第 【資料1】第3期八王子市地域福祉計画における「包括的な相談・支援体制」について 【資料2】第3期八王子市地域福祉計画における「包括的な地域福祉ネットワーク会議」について 【資料3】「地域福祉推進拠点」の整備状況について 【資料4】第3次八王子市地域福祉推進計画 骨子案(概要) ・ 意見書

会議の要旨

1. 開会

2. 議題

第3期八王子市地域福祉計画について

(1)「包括的な相談・支援体制」について

事務局より【資料1】に沿って説明。

第3期八王子市地域福祉計画で重点課題として掲げている「包括的な相談・支援体制の推進」について、前回、委員の皆様から多くの意見が寄せられたため、共有認識を持てるよう改めて事務局で整理した。

(2)「包括的な地域福祉ネットワーク会議」について

事務局より【資料2】に沿って説明。

社会福祉法人八王子市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）が運営する地域福祉推進拠点（以下、「拠点」という。）のコミュニティーソーシャルワーカー（以下、「CSW（シーエスダブル）」という。）や関係機関が、地域の意見を吸い上げ、地域で解決が困難な課題への対応方法を検討するため、包括的な地域福祉ネットワーク会議（以下、「会議」という。）を市で1つ設置し年2回程度会議を開催するという提案をした。

和田会長
黒岩委員

では、以上2点に関して御質問や御意見はありますか。

今回の提案は私自身のイメージと合っていて、いいと思いました。

鍵は拠点だと思います。各拠点にはCSWが配置され、年2回の会議の時に各地域を代表して参加するという役割がCSWだと思いますが、そのためには拠点数か所につき1人ではなく1拠点ごとに専任的に配置されるのがいいと思います。この人員配置はどうなっていますか。

井上課長

これまでCSWの配置は拠点1か所につき専従のCSW1名+社協の臨時職員1名の計2名体制で配置しています。

黒岩委員
井上課長

今後も、21か所分の人数の予算を確保して社協職員を常駐させるのですか。そのとおりです。CSWは社協の職員で、アウトリーチ（訪問型相談）の時は臨時職員が常駐している形です。

和田会長
井上課長

来年度以降の拠点整備に伴う人員の配置計画はありますか。

計画では、拠点整備を平成32年度までに15か所、平成34年度までに21か所という目標を立てています。目標の21か所に対し1か所1名のCSWの配置を目指して、予算の確保を進めていきたいと考えています。

小室委員

CSWは人数も大切ですが質も大切だと思います。東京都のCSWの活動事例を聞くと、とてもレベルが高いです。個々のクオリティを上げることが大切だと思いますが、新任研修やレベルアップ研修は考えていますか。教育計画はありますか。

井上課長	拠点には社協で経験を積んだ職員を配置しており、CSWが対応できない場合は社協が一体となって対応しています。人材育成については社協と市とで連携して取り組んでおります。臨時職員についても社協職員のOBなど経験者を採用しています。
社協	体系化された教育計画は今のところありませんが、東京都の研修への参加と内部のOJTにて研修をしています。
小室委員	会議の構成員としてCSWは入りますか。
井上課長	構想としては、CSWも入っています。
黒岩委員	鍵はCSWと言いましたが、民生委員・児童委員さんも連携して活動されていると思います。CSWがメンバーになれば民生委員・児童委員さんの意見も含まれるということなのか、それとも、民生委員・児童委員さんの負担の問題もありますが、一番身近な地域の課題を抱えているという点では入る方がいいのでしょうか。
井上課長	民生委員・児童委員さんは、例えば拠点川口では運営委員会には入ってもらっています。地域の中でCSWと課題を共有してもらうので、会議には地域を代表してCSWが入ってもらうことを考えています。
和田会長	ここには実務者を中心としたメンバー構成としか書いていませんが、具体的にはどうなっていますか。
井上課長	次回までに考えます。
和田会長	では、次回の会議で示していただきたいと思います。ほかにありますか。
山本副会長	どこに相談していいかわからない困難事例があり、拠点に動いてもらっています。法律的な問題もあるためCSWには負担が重く、ここに書いてある専門機関だけで足りるのかという問題もあると思います。他の拠点での困難事例を聞いてみたいです。
和田会長	今日は拠点の現状を知ることができたということで、次回は会議の中身について考えたいと思います。
	<p>3. 報告</p> <p>八王子市社会福祉協議会からの報告事項</p> <p>(1)「地域福祉推進拠点」の整備状況について</p> <p>整備状況については事務局より、取組状況については八王子市社会福祉協議会井出支えあい推進課長より【資料3】に沿って説明。</p>
和田会長	御意見や御質問はありますか。
山本副会長	由井の拠点は6㎡とびっくりするほど狭かったのですが。
井上課長	東南部は場所の選定が難しく、由井市民センターという狭い場所になりました。相談スペースとして会議室を借りられるようになっていますが、今後運営に支障があるようであれば、スペースを拡大するよう検討していきます。
和田会長	拠点には集えるスペースがあってほしいですね。他にはいかがでしょうか。

黒岩委員	アウトリーチについて、具体的な進め方を教えてください。近隣の方ですか、どこかからの連絡があって訪問するのでしょうか。
井出課長	市民センターの会議室などで行われる団体の集いの場に出向いて話をしながら問題を聞き出し、訪問しています。平成29年度の実績でいうと、拠点石川と川口では相談の54%が本人からの相談、それ以外は民生委員・児童委員さんや近隣の方、行政機関からの情報提供で動いています。待つのではなく事前予防型の福祉の展開を図っています。
和田会長	相談件数を見ると、大和田はアウトリーチが多く来所が少ないですね。浅川は来所の方が多いのですが、大和田は3階にあるからとか、建物の構造は何か関係はあるのでしょうか。
井出課長	あると思います。浅川は入ってすぐにあるので皆様来やすいのですが、大和田は3階の一番奥と目立たない場所にあります。施設については今与えられた中で最大限やっていきたいと思っています。
和田会長	そうですね。まずは整備することが大事ですね。他にありますか。ないようですので、次に進めます。
<p>(2)「第3次八王子市地域福祉推進計画」策定の進捗状況について 八王子市社会福祉協議会大島福祉総務課長より【資料4】に沿って説明。</p>	
和田会長	御意見御質問等がありますでしょうか。
添田委員	社協の「(仮称)よろず相談窓口」について、具体的にはどのようなものでしょうか。
大島課長	社会福祉法人が地域で公益活動をするにあたり、相談窓口を作るものです。
和田会長	さらに民間に間口を広げたいと思ったのが「商店・銀行等を視野に展開」ということでしたが、難しいのではという意見が出て再考中ということですね。
添田委員	社会福祉法人に相談に行くということが市民からはあまりないのではないのでしょうか。今は施設か高齢者あんしん相談センターか、拠点ができてくればそこに行くかと思いますが。
和田会長	窓口としての法人はどこを想定しているのでしょうか。
井出課長	社会福祉法人は分野ごとに活動していて、これまで地域との連携はあまりありませんでした。地域をまとめるツールとして、2~300ある施設に共通する「福祉なんでも相談」といった看板を掲げた窓口を作りたいと思っています。中心に対応するのは拠点のCSWを想定しております。
添田委員	地域共生社会といいます。福祉も介護も子供も障害者も丸ごと相談できるようにするというのでしょうか。
井出課長	そのとおりです。課題を抱えている方を見つけ出すアンテナをもっと増やしていきたいと思っています。地域資源の連携を高めたいというのがあります。将来的には介護事業者などすそ野も広げていきたいですし、民生委員・児童委員さんや施設などと何かの事業を一緒にやるなどして、地域力・連携力を高め

<p>添田委員 黒岩委員</p>	<p>ていければと思っています。 市民とすれば、身近なところに看板があれば相談しやすいと思います。 社会福祉法人の地域貢献は重要です。専門職の集まりである社会福祉法人自体も、こういう仕組みを作るとある意味CSWのように地域に入っていけるようになるのではと思います。連携ができていくにはまず場があること、それを社協が中心となって働きかけるというのがいいですね。</p>
<p>和田会長</p>	<p>名前は、「相談」だけではなくもっと広い意味の利用価値があるので、他にいい表現があるといいですね。</p>
<p>山下委員</p>	<p>社会福祉法人の法人間の連携が大事だと思います。法人間の連携の会議を義務付けて開催してほしいと思います。また、例えば高齢者施設に親を預けている利用者が子どもを預ける施設も利用したいなど、複合のサービス利用の仕方とか幅広いニーズに応える仕組みがあるといいですね。この法人間の連携会議が各法人をアウトリーチして、指導したり問題をピックアップするという仕組みができるといいのではないのでしょうか。</p>
<p>和田会長</p>	<p>そうだと拠点との相乗効果もありそうです。やはり表現を変えるといいですね。</p>
<p>山本副会長</p>	<p>「窓口」といってもその場で相談を受けるというより、そこを入口として利用するイメージでしょうか。</p>
<p>井出課長</p>	<p>大阪では例えば貧困の相談を受けたらフードバンクの食料を渡すまで一連でやっていますが、それは徐々にということ考えています。八王子市にはまだ社会福祉法人をつなぐ会議がありません。保育園協会や施設長会など分野ごとにしかないので、拠点を元に、拠点の地域の中にある施設などで会議体を作っていきたいと思っており、今は交渉中です。</p>
<p>篠原委員</p>	<p>地域性についても考えてほしいと思います。土地柄というのもありますので、どこに拠点を置くのかが課題ですね。</p>
<p>和田会長</p>	<p>拠点を整備するにはいろんな条件があるので難しいですが、いずれにしても地域性というものを考えて作るということですね。 ほかにありますかでしょうか。よろしければ、終了とさせていただきますが、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題（２）のネットワーク会議について、構成員の案を作らせていただき、次回の議題としてここで諮りたいと思いますので、日程調整をお願いします。 ・次回日程調整の結果、12月25日（火）に決定。 4. 閉会</p>
<p>以上</p>	
<p>議事録署名人</p>	<p>和田 清美</p>